

建設

五月號

第四卷

第五號

通卷第24號



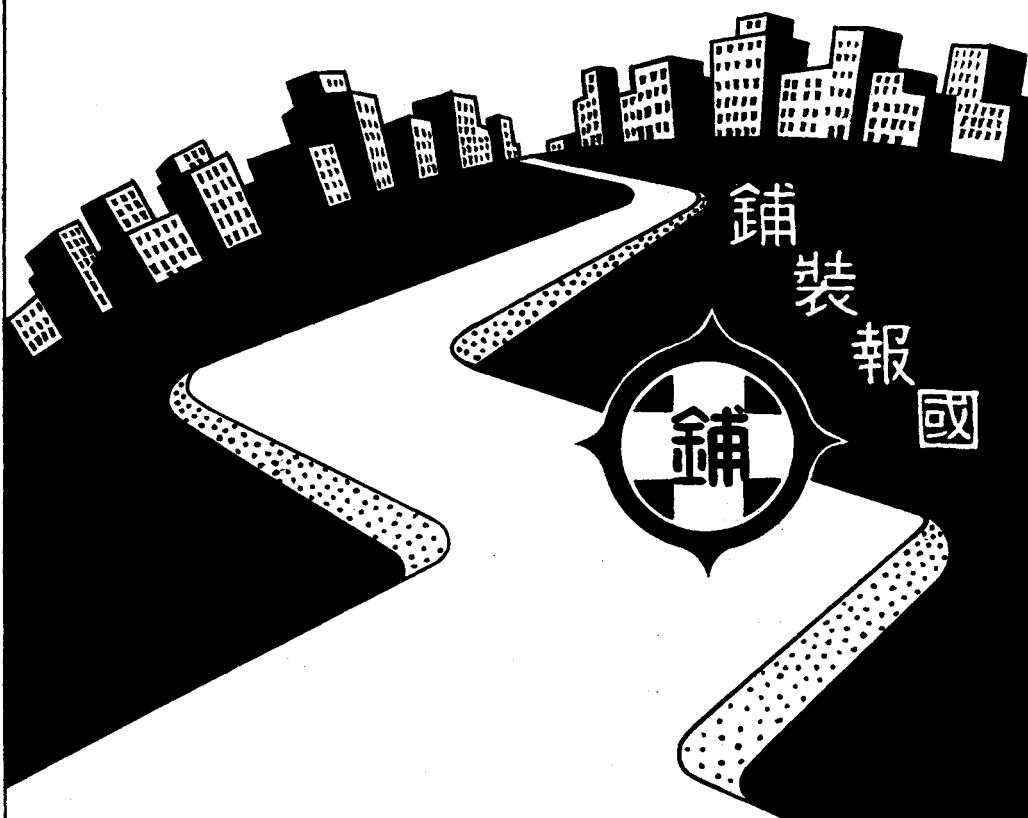
滿洲土木研究會

特許ワーレナイトビチユリシツク鋪裝

特許ベノリシツク鋪裝

特許マカダミツクス鋪裝

アスファルト其他各種鋪裝並ニ一般土木建築



本社 東京・丸ノ内

日本鋪道株式會社

出張所 新京曙町三ノ二二・電話3-4766

各地出張所

東京。横濱。名古屋。京都。大阪。福岡。臺北。札幌。京城

建設

五月號

第4卷 第5號

通卷第24號

康德6年5月1日發行

目次

■ 表	紙	石門子、堰堤工事處遠望
■ 口	繪	三家子石門子堰堤工事グラフ
卷頭の辭		M・M 生 1
複素函数論の水學の適用(其の二)		永井莊七郎 2
水平並=逆勾配水路=於ケル自由定流水路ヲ求ムル一解法		淺野好 9
圓形井戸側計算に對する一考察		荒井利一郎 14
奉天渾河橋計畫洪水量の考察(其の二)		山崎浩 20
■ 會報		31

技術學校
幹部
高幹
備附
備付
生

滿洲土木研究會役員

會長	直木倫太郎			
理事	近藤安吉	坂田昌亮	原口忠次郎	
	本間徳雄			
常任幹事	大石義郎			
幹事(新京)内	田弘四	浮洲實	片岡武雄	橋内徳治
	高野宗久	田村初代志	照井隆三郎	沼田征矢雄
	廣岡勝治	前田稔	源川豊一郎	吉村富之助
	米田正文			
(地方)	伊地知綱彦	五十嵐真作	伊藤茂利三	奥村勝
	太田哲夫	王達	夏儒聘	黒田重治
	佐藤九郎	周鴻恩	種谷實	寺師虎之助
	東城源三	林鷹一	松本進	山岸貞一
	渡邊幸三郎			
編輯員	中村佳教	丹生田武男	原雪雄	村木伊英
編輯嘱託	濱豪質	湯淺三二郎		(五十音順)

滿洲土木研究會々則

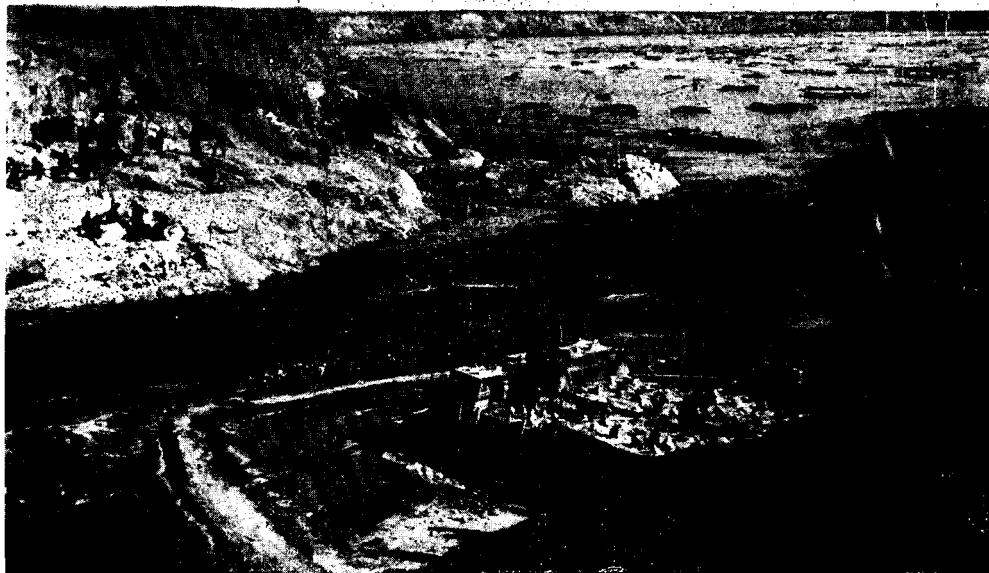
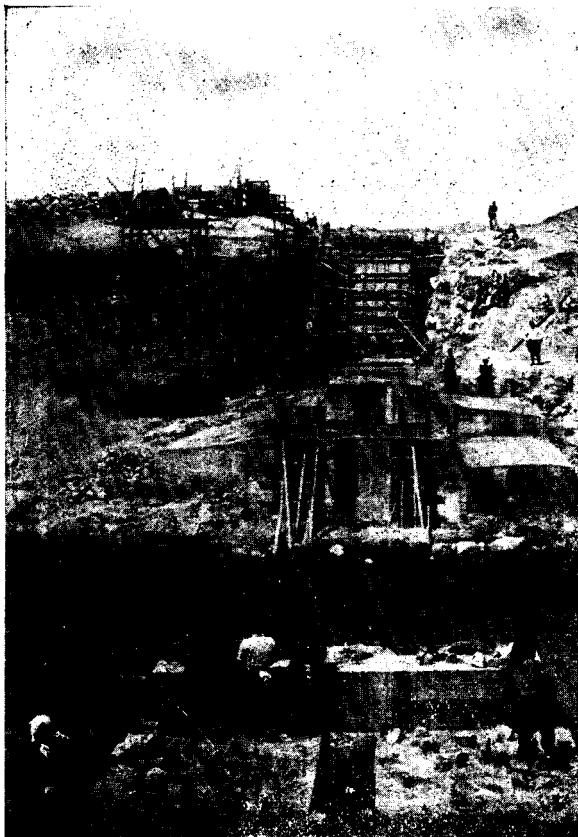
- 第1條 本會ハ土木ニ關スル研究、調査ヲナシ以テ滿洲土木事業ニ貢獻セントスルモノナリ
 第2條 本會ハ滿洲土木研究會ト稱ス
 第3條 本會ハ本部ヲ新京ニ置ク、尙必要ナル地方ニ支部ヲ設クルコトヲ得
 第4條 本會ノ會員ハ特別會員、正會員、學生會員ノ三種トシ左ノ通定ム
 1. 特別會員ハ本會ノ趣旨ヲ賛シ事業達成ニ協力援助スル法人又ハ團體
 2. 正會員ハ左ノ資格ヲ有スル者トス
 イ、滿洲ニ於ケル土木事業ニ携ル者
 ロ、其ノ他土木事業ニ關シ學識經驗アル者
 3. 學生會員ハ公私立土木關係學校ニ在學スル學生、生徒
 第5條 會費ハ正會員ハ年額6圓、學生會員ハ年額3圓トス
 第6條 本會ニ會長一名及理事、幹事、委員各若干名ヲ置ク
 第7條 理事ハ在京會員中ヨリ會員之ヲ選舉シ、會長ハ理事ノ互選ニ依リ之ヲ定ム
 第8條 幹事ハ理事會ノ決議ニヨリ會長と委嘱ス
 第9條 本會ハ必要ニ應シ各種委員ヲ置クコトヲ得、委員ハ役員會ノ決議ニヨリ會長之ヲ委嘱ス
 第10條 役員ノ任期ハ一個年トス
 第11條 本會ハ其ノ目的ヲ達成スル爲左記事業ヲ行フ
 1. 機關誌ノ發行
 2. 土木ニ關スル圖書、編纂發行
 3. 講演會、講習會、見學會ノ主催並ニ後援
 4. 右ノ外本會ノ目的達成ニ必要ナル事業
 第12條 會則ハ改正ハ役員會過半數ノ承認ヲ要ス
 附 本會則ハ康德6年1月1日ヨリ施行ス

以上

石門子堰堤工事

石門子北堤

本北堤は柳河上流部治水工事の一部にして流出土砂停止による河牀改良を目的とするもので高サ八米長サ一二米の重力式コンクリート堤であつて其貯砂量約八五〇万立方米である。開得海堰堤と同時に施工中で本年秋には竣工の豫定である。



三 家 子 堤 工 事

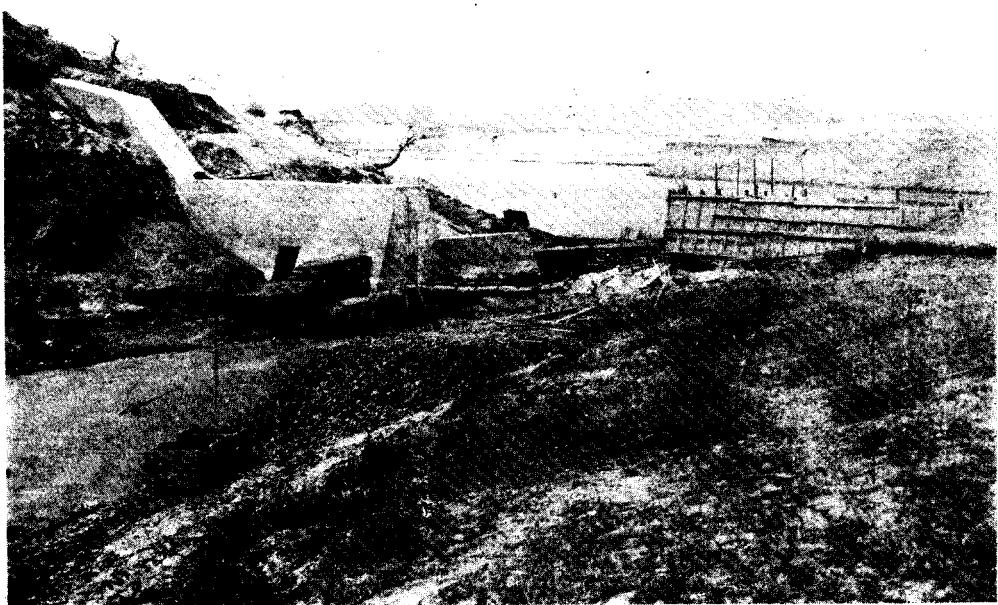
開 得 海 堤 堤



右岸上流を下り岸左より望む

本北堤は遼河治水事業の先驅をなす柳河治水計畫の核心をなすもので堤高三八米堤頂延長一七〇米堤體立積約七萬立方米にして本堤により洪水調節と貯砂作用の二機能を最大限に發揮せしめんとする計畫であつて工事着手は康徳五年五月竣工予定は康徳七年未にして日下交通部彰武治水工程處直轄施行のもとに盛に床堀工事中である。

三 家 子 北 堤



本北堤柳河上流部治水工事の一部たる砂防北堤にして高七米長八〇米、堤體立積一、四一九立方米である。工事着手は康徳五年十月で本年秋には竣工の預定にて施行は交通部彰武治水工程處の直轄である。